



19

古典を伝える

旅への思い

芭蕉と

『おくのほそ道』

ねらい

- ① 文章の特徴に注意して読み味わおう。
② 各場面の情景やそこに示されている心情を想像しよう。

ウォーミングアップ



読解の道しるべ

● おくのほそ道

・江戸時代の俳人、松尾芭蕉による紀行文。

・人生の大半を旅に過ごした中国・唐や日本の詩人たちにならって、旅した。

・各地でよんだ俳句を文章に織り込み、推敲を重ねて旅の体験をまとめた。

・元禄二（一六八九）年、東北・北陸地方へ旅に出たときの記録。

行程

（旧暦）

三月二十七日

江戸の深川を出発。

■ 旅立ち ※出発前

千住（東京都）

日光・那須湯本（栃木県）

白河・福島（福島県）

仙台・松島（宮城県）

石巻・平泉（岩手県）

尾花沢・立石寺・大石田・月山・酒田（山形県）

象潟（秋田県）

出雲崎・市振（新潟県）

金沢・小松・山中（石川県）

福井・敦賀（福井県）

大垣（現在の岐阜県大垣市）に到着。

五か月近く
徒歩や馬での旅
二千四百キロメートル

八月下旬



「読解の道しるべ」を参考にして書こう。

① 『おくのほそ道』は、

時代に

に

よって書かれた作品である。

② 『おくのほそ道』は、

・北陸地方を旅したときの体験をまと

めた

である。

▼ 漢字・語句を確認しよう。

1 線の読み仮名を書きなさい。

□① お年寄りに席を譲る。

□② 食事を勧める。

□③ 娯楽施設が少ない町。

□④ ドラマが佳境に入る。

□⑤ 漂泊の思いが募る。

□⑥ テーブルを隔てて話す。

2 線の片仮名を漢字で書きなさい。

□① カンガイにふける。

□② 海外にタイザイする。

□③ キンキ地方を旅行する。

□④ 物語のボウトウを暗記する。

□⑤ くもの巣をハラう。

□⑥ リョカクキに乗る。



練習問題 1

教科書 P.122 Q.1 ~ P.123 Q.2

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



□(1) — 線①「過客」と同じ意味を表す言葉を、文中から二字で書き抜きなさい。

--	--

□(2) — 線②「予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊の思ひやま
ず」とありますが、芭蕉が旅に出ようとするのは、どんな気持ちからですか。

「昔の人たち」という言葉を使って、四十字以上五十字以内で書きなさい。

50 40

□(3) — 線③「白河の関越えむ」の意味として最も適切なものを次のうちから
選び、記号で答えなさい。

- ア 白河の関を越えることはできないだろう。
イ 白河の関を越えていきたいものだ。
ウ 白河の関を越えたらどうだろう。
エ 白河の関を越えてしまった。

()

□(4) — 線④「心をくるはせ」は、作者の旅に出たくて落ち着かない様子を表
しています。この部分と対句になるところを文中から十字以内で書き抜きな
さい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(5) 「草の戸も住み替はる代ぞ雛の家」の句の季語と季節を書きなさい。

□季語

□季節

定期テスト対策

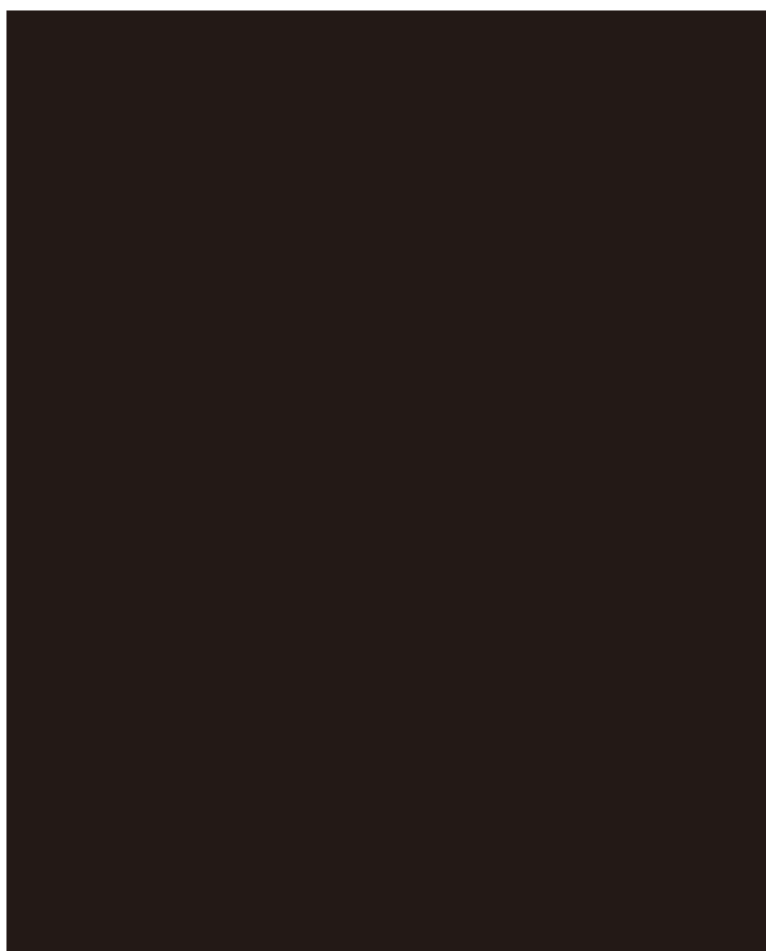
教科書 P 118 ~ 127

実施時間のめやす ↓ 20分

得点

100点

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



□ (1) この文章の場面の説明として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 作者は秀衡の館の跡にいる。
- イ 作者は泰衡の館の跡にいる。
- ウ 作者は、夷と戦った高館の城を見物している。
- エ 作者は、周囲にくさむらだけが残る高館にいる。

(10点)

□ (2) — 線① 「三代の栄耀一睡のうちにして」とありますが、この表現にこめられた作者の思いを三十字以内で書きなさい。

(12点)

□ (3) — 線② 「秀衡が跡は田野になりて、金鶏山のみ形を残す」とありますが、ここではどんなことが対比されていますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 美的なものと醜いものとの対比。
- イ 新しいものと古いものとの対比。
- ウ 静的なものと動的なものとの対比。
- エ 人の世の盛衰と悠久の自然との対比。

(10点)

(4) 「夏草や兵どもが夢の跡」の句について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

□ Ⅰ 句中から切れ字を書き抜きなさい。

(5点)

□ Ⅱ この句の意味を最もよく表している部分を文中から十二字で書き抜きなさい。

(10点)

□(2) 線②「心澄みゆくのみおほゆ」を現代語に直して書きなさい。(5点)

③ 次の——線の読み仮名を平仮名で、片仮名を漢字で書きなさい。(2点×4)

①	美術部に勧誘する。	(	□②	権限を委譲する。	(
③	危険をオカす。	(	□④	作業がトドコオる。	(

(3) 「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」の句について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

□Ⅰ この句の季語と季節を書きなさい。
(完答10点)

季語	季節
┌──────────┐	┌──────────┐

□Ⅱ 何と何が対照的に取り上げられていますか。句中から書き抜きなさい。

季節

—

☐ ③ 危険をオカす。 ()
☐ ④ 作業がトドコる。 ()

☐ ① 美術部に勧誘する。()
☐ ② 権限を委譲する。()

（ ）
□
② 権限を委譲する。
（ ）

() □ ④ 作業がトドコオる。()

思考・表現 「平泉」と「立石寺」とでは、作者が受けた印象が違っています。これら二つの名所の印象の違いについて、あなたはどのように考えますか。次の条件にしたがって、あなたの考えを書きなさい。

条件1 「旧跡」「営み」という言葉を使って書くこと。

条件2 五十文字以上八十文字以内で書くこと。

条件2 五十字以上八十字以内で書くこと。

チャレンジしてみよう

80

50